

会議名 第5次総合計画検討特別委員会

日時 令和2年7月9日（木）午後1時10分～午後3時4分

場所 第2・第3委員会室

出席議員（全議員）

委員長	黒川 武	副委員長	木村冬樹	委員	梅村均
委員	片岡健一郎	委員	鬼頭博和	委員	谷平敬子
委員	水野忠三	委員	大野慎治	委員	宮川隆
委員	須藤智子	委員	井上真砂美	委員	伊藤隆信
委員	関戸郁文	委員	堀 巖	委員	栴谷規子

説明者 秘書企画課長 伊藤新治、同主幹兼市制50周年推進担当 小出健二

事務局出席 議会事務局長 丹羽至、同主任 高野真理子

第5次総合計画検討特別委員会（令和2年7月9日）

◎委員長（黒川 武君） 皆さん、こんにちは。

定刻になりました。また、関係者の皆さんもおそろいでございますので、これより第5次総合計画検討特別委員会を開催といたします。

最初に、執行機関より挨拶がありましたらお願いします。

◎秘書企画課長（伊藤新治君） 本日は、第4章、第5章というところですので、またいろいろ御意見を頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

◎委員長（黒川 武君） ありがとうございます。

本日の議題はお手元の次第でございますように、第4章と第5章についての検討ということになります。

最初に、委員長より皆さんにお願いがございまして、1つは、梅雨前線に伴う大雨豪雨が大変今懸念される、心配される時期でございますので、本日は3時をもって打ち切るということにいたしますので、皆様の御協力をお願いしたいと思います。

それと、前回でも申し上げましたように限られた時間内での検討でございますので、細かい部分とか、あるいは何か聞きたいということがあれば、それまた申し訳ないけれど、個々でお聞きいただくようお願いをしたいと思います。ここでは第4次総合計画の総括評価ということで、課題が達成できているのかと、積み残しの課題はどうかと、新たな課題はどうか、そういった観点から検討評価を頂き、第5次総合計画につなげていくような、そういう方向性を持って検討することに御留意を願いたいと思います。

それでは、早速、(1)第4次岩倉市総合計画基本施策実績評価第4章についてを議題といたします。

基本施策、交通対策から入ります。

委員の皆さんの発言を求めます。

◎委員（宮川 隆君） 書きっぷりに関しては、公表されたやつですから今さらという感じはするんですけども、つらつらと読んだ中で、現在の交通空白地域の解消ということに関して触れられていないように感じたんですけども、その辺がどのように今後取り組まれていく、要は5次総に反映していくおつもりなのかお聞きしたいと思います。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

交通空白地域ということですけど、交通空白地域というのが、いわゆる一般的に言われる部分でいくと、市街化区域の中に関する部分が都市計画という

ところで見たときに対象になってきます。

岩倉市としての認識は、もちろん北島町であるとか、野寄町であるとか、川井町の一部がそうした区域に距離で言ったときに入ってくるという認識はあるんですけども、総合計画の中で空白地域という言い方は、表現として使わない方向で、課題は認識しつつ取り組んでいきたいというふうに考えております。

◎委員長（黒川 武君） 他にございますか。

◎委員（梅村 均君） 放置自転車の関係ですけれども、だんだんよくなってきているというようなことは聞いているんですが、放置されない対処をこれからも考えていかなければいけないのかなと思います。

そういう意味で、これまで撤去をするということで放置自転車のほうは減ってきたかと思うんですけども、撤去すること以外にもいろんな方法があれば、それは考えていかなければいけないと思いますけど、防犯カメラがついている岩倉駅の線路沿いのサクランドの北側ですけれども、ああいう防犯カメラをつけて何か効果があったとか、そんな話というのは出てないでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

基本的に防犯カメラについては、安全・安心カメラという言葉が出てくる前から、駐輪場については順次整備を進めてきておりまして、それによる効果としては、自転車盗が一定減少傾向にあるという効果はあるというようなことで担当課とは意見交換のほうをしております。

◎委員（梅村 均君） ありがとうございます。

撤去以外の方法でも、いろいろ放置されないような取組が今後必要だと思いますので、よろしく願いいたします。

◎副委員長（木村冬樹君） 個別施策で言うと高齢社会に対応した総合交通対策の実現をというところで、宮川委員が今おっしゃられた空白地域の問題なんかも含めて、今、デマンド型乗合タクシーからふれあいタクシー事業に代わって、しかし、そこでこれからまだいろんな高齢化の中で問題が出てくるだろうというふうに思っているものだから、第5次総計に書く言葉としては、やっぱり臨機応変に対応していくような言葉が必要ではないかなというふうに思っていますので、その辺について、もし何かあれば聞かせてください。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

おっしゃるとおりで、状況は本当に10年というスパンで見れば大きく変わってくるだろうと予想されます。

現在、国のほうも公共交通に関しては、何年かに1度、必ず大きな制度改正というか法改正の議論がされ、考え方そのものも変わっていくような動きがありますので、今回の案の中にそうした動きをどこまで書き込めるかなあというところは、一定、見守っていかないといけないなとは思っています。

いずれにしても目指す部分で言うと、やはり住民の方、全ての方が移動しやすい環境をつくっていくというところは変わらない目標になってくると思っていますので、可能な範囲で臨機応変という言葉ではないと思うんですけども、読み取れるような表現は使っていきたいなというふうには思います。

◎委員（梶谷規子君） 主な積み残し課題及び新たに生じた課題のところの2つ目のぼつで、新規の都市計画道路以外では、費用的な面もあり歩道の段差解消、点字ブロックの設置など進んでいないとあるんですが、費用的な面もあり、でも、ここまで進めていくよという方向が定まっていれば、計画的にやっていこうというところが見えてくると思うんですが、そこら辺の具体的に今度の5次総では、どこまでどんなふうに道路のバリアフリー化などをやっていくのかみたいところが明らかになっていくんでしょうか。

また、自転車の道路交通法が変わってのこの10年と思うので、高齢者の方の自転車が多いんですけど、そういった面での安全と快適にということと、どんなふうにするという2点についてお願いします。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

いずれの2点、歩道に関する部分と点字ブロック、自転車道の話は、空間的な容量といいますか、費用というのも施工の費用の話だけではない費用面のことが含まれていまして、この間、市民の皆さんのいろいろな意見を聞くと、やはり歩道の設置だとか段差の解消というのは、子育て世代に優しいまちである以上、やってもらいたいというような意見は多く頂いていますし、それはアンケート結果からも読み取れるような状況ではあります。

しかしながら、計画的に既存の部分を拡幅するなりしながら事業を進めていくというのは、正直言って費用的にも難しい状況であると思っています。

とはいえ、段差の解消ですとか、スペースがある部分での点字ブロックの設置など、全てができないわけじゃなくて、できることはあるものですから、順次そういったところは課題認識を持ちながら対応していきたいということと、やはり新規の道路の整備もこの後控えていますので、そうしたところでは、しっかりと整備をしていくという方針の中で進めていきたいと考えております。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はございますか。

◎委員（大野慎治君） よろしく申し上げます。

(2)のバス等の利便性の向上で、①民間路線バスの維持・充実で積み残した課題が、名鉄バスへのヒアリングの結果、九日市場線の延長には大きな課題があることが明らかになったという等々があって、次期総に向けてバス路線の拡充・新設を行政の財政支援なしに実現するのは難しいため、次期計画でも拡充・新設については記載するのか検討するという、記載するのか検討するというのは、ちょっと日本語的に難しいんですけど、記載するということがいいんですか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

まさに今検討中でして、全体とすると、やはり路線バスに関していいますと民間の事業ということで、この課題の中にあるヒアリングの結果、大きな課題というのは、実際は非常に難しいということです。具体的に言えば、費用的に採算が取れる可能性がないので、市がお金を出せるのであればというようなどころまで言われています。

そうしたところも踏まえて、違った形での対応ということも考えていく必要があるのかということを担当としては考えているところですがけれども、なかなか路線を増やすとか、そうしたバスを走らせるという記載はやっぱり難しい部分もあるので、いろいろと多角的に検討をしているところであります。具体的な記載は難しいと思っています。

◎委員長（黒川 武君） 他によろしいですか。

[挙手する者なし]

◎委員長（黒川 武君） 特にないようですので、次の基本施策、道路のところに入ります。

委員の発言を求めます。

◎副委員長（木村冬樹君） 都市計画道路の見直しのことであります。個別施策で言うとそこになるとは思いますけど、この4次総計の中では、最終的には見直す必要がないという判断をして、推進するために県等に働きかけをするみたいな形で進められていると思うんですけど、しかしながら、今度の5次総計の10年の間で、やっぱり一定の判断をしていかなきゃいけない時期を迎えるというふうに思います。

公共施設なんかは、もうやっぱり縮小していく方向で人口減少社会に対応するというようなことが一つの方針であるにもかかわらず、都市計画道路だけが依然として、整備をどんどん進めていくということが本当に必要かどうかというところは考えていく時期になっているのではないかなというふうに思うんですけど、その辺については、5次総計にどのような記載を考えているのか、今考えがありましたら教えてください。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

こちらはやはり私どもも気になるところでヒアリングをしているんですけども、方向性としては見直しをやむなしとか、していくような方向で市としては認識をしているんですけども、やはり都市計画道路というのは、岩倉市だけの問題ではないことが多くて、近接している自治体の意向、あとは愛知県の意向というところで、結果として見直しはしないというようなことで、一旦、方向としては出ているようです。先の10年間の中で、それがどのような議論になっていくかというのは、ちょっと判断が難しい部分もあるので、記載としては必要性について明記していくようなことも考えているというようなことでした。

◎副委員長（木村冬樹君） ありがとうございます。

〔「すみません。ちょっと補足を」と呼ぶ者あり〕

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

特定の道路についての話でして、何本かある中で全体を見直すということではなくて、今全く着手できていない事業についてどう考えるかということだという認識ですみません。

◎委員（宮川 隆君） 道路づくりの基本的なスタンスの部分で確認のためお聞きしたいんですけども、自転車活用推進法の施行に当たって云々という文章が書かれているわけなんですけれども、かつて石黒市長、そして公明党の井上敏樹議員が提唱されていた井桁構想と言うんですかね。通過交通をできるだけ市街地に入れずに幹線道を通して移動させよう。生活道路に関しては、できるだけ歩行者や自転車の利用しやすいような環境をつくっていくということ。過去は進んでいたようなんですけども、ここ最近になって自転車を中心にとかという言葉がだんだん薄れてきたような気がするんですね。5次総の策定に当たってそれぞれの道路の役割だとか、それから作り込みの在り方とかというものをどういうふうに位置づけして、どう区別していくのかという方針が、もしあるのであれば、ちょっとお示しいただきたいと思うんですが、お願いします。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

大きな考え方は変わってないと思います。ただし、自転車を取り巻く環境とか、考え方というのがやっぱり変わってきていまして、自転車専用道を整備してそのネットワーク化を図っていくだとか、それを観光ですとか、そういったところに利用していくというような大きな動きがあります。

岩倉市に関して言うと、幹線道路で自転車専用道によるネットワークをつくっていくという考え方には今はまだ至っていない状況でして、生活に必要

な自転車をもどのように安全に市民の方に利用していただくかという考え方の下に、ソフトの部分の面が中心にはなるんですけども、自転車の活用というものは図っていきたくて思っております。

◎委員長（黒川 武君） 他によろしいでしょうか。

◎委員（片岡健一郎君） (2)の安全・快適な道路環境の整備の①の歩行者・自転車の安全確保のところなんですけれども、指標がありまして、通学路における歩道の整備率ということで98.8%、5年間ずうっと変わってないのかなというふうにこの数字を見ると思います。目標としては100%なんですけれども、この1.2%ですか。残りのこれはなぜかというのがもし分かれば、100にならないのかを教えてくださいたいんですけれども。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

こちらに関しましては、歩道等の設置は実際できていない。カラー舗装による整備の部分を整備率として換算して出している数字です。

ここにありますように、狭隘道路が通学路になっているような場所もあって、市としては、整備すべきところは、平成二十四年、五年ぐらいだと思いますけど、その2年ぐらいでもう全部やったと。あとは更新というか、色が薄れてきてしまっているようなところの再舗装が必要なんじゃないかというようなところで、今議論をしているところです。

◎委員（片岡健一郎君） ありがとうございます。

この効果を図るというのも、一つ、重要じゃないのかなというふうに思っています。例えばですけど、事故がどうなのか、このカラー舗装をやってですね。事故が減っているのか、減っていないのか。逆に増えていけばこれは効果ないということにはなるので、その辺を一回、指標として考慮してはどうかなというふうに思いました。意見です。

◎委員長（黒川 武君） 意見でよろしいですね。

◎委員（堀 巖君） 議会でもちょっと言ったんですけれども、道路を環境面で見るというところですよ。地球温暖化でアスファルトに覆われた道路が地球の中にどのような影響を及ぼしているのかということと、温度を下げるような舗装、道路ということを考えての記述というのは、今後必要になってくると思うんですけれども。

あとそういったことで環境のほうの総合計画の体系図と色々なリンク、全ての総合計画は色々な施策が色々な事業にリンクしていると思うんですね。それを、よく教科書で関連するところのものが指し示したり、すごく有機的に総合計画が網羅できるような工夫というのはできないものなのかなというのをちょっとふと考えているんですけれども、そこら辺はいかがでし

ようか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

おっしゃられるように、様々な分野が複雑に絡み合っているというか、関係があって、総合的にまちづくりを進めていくべきだということはそのとおりかなと思います。

これまでのやり方ですと、現計画も関連性がある程度強いものについては、再掲というような形で違う基本施策の中にもその施策をしっかりと可視化しています。今できるのはそういったところかなあと思います。

また、関係性が深くてよりそこを重点的に取り組むべきものは、まちづくり戦略という基本計画の総論の部分に4つの項目を上げていまして、そこがまさに組織横断的に取り組む内容だよというようなことを示しておりますので、今回もそれがどういった項目になるかは分かりませんが、その環境というのは一つ大きなジャンルといいますか、大切な分野だと思いますので、そういったところでどういった記載ができるのかなというところを、またちょっと考えさせていただきたいと思います。

◎委員（水野忠三君） 広い意味で道路の防災対策ということになるかと思うんですけども、昨日の大雨で道路冠水したところが、ちょっとカウントの仕方によっては数字が違いかもしれませんが、5か所ほどあるということで、その中の一部に関しては、私も地元の方から、以前から昔からそうだよというふうに言われるところがございまして、昔から改善されてないということをお聞きしたところもございまして。

ですので、排水対策とか、昔からここは道路冠水するところと分かっているとところが長年そのままというのは、改善する計画とか、今排水設備、その他、改善する計画などはありますでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

これ、2章の災害対策のところの浸水対策という形で内水の部分の対策、主に調整池関連ですけども、それに関しては47計画と言われておりますけれども、新川流域の全体で取り組んでいく対策の計画がございまして、それに基づき、市として進められる対策を取ってきているところであります。

現在、五条川小学校のところが終わって、次……。終わってないです。ごめんなさい。昨年の工事に切りがついて今年度中に完了する見込みです。すみません、失礼しました。

◎委員長（黒川 武君） 他にございませんか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） ないようですので、次の基本施策、市街地整備に

入ります。

委員の発言を求めます。

◎委員（梅村 均君） 中心市街地の整備のところ、次期計画に向けての方向性が岩倉駅東地区の町並みに限定せず指標の見直しを検討するというところで、どうして東地区を限定せずというふうになってきたのかという、ちょっと経緯を聞きたいんですけど。

左のほうの指標を見ると、駅東地区の町並みが魅力的であると感じている市民の割合はすごく低くて、指標を分析した結果も空き地となっていたり、中心市街地としての町並みが形成できていないということで、本当に魅力的でないところになっているんだなあという現状の中で、なぜこの時期の計画が、あえて東地区を限定して見ていくんじゃなくて違う指標にしてしまおうとしているのか、そういうふうに至ったところの経過が分かれば教えてください。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

この指標に影響を与えるというか、こちらとして意識をしてこの言葉を選んだ理由が2点ありまして、駅東地区の再開発関係で駅前の町並みという部分と、もう一つは、岩倉街道を中心とした歴史的な町並みというような意味合いも込められていたと考えています。

実際、いろいろと御意見も頂くところではあるんですけども、しっかりとした岩倉の歴史を語っていく上で、やっぱり岩倉街道というのは大事な道であるものの、歴史的な町並みを一般の所有の建物ということもあって、建て替えだとか、そういったものが進んでいくものを抑制し切れなかったというか、そういったこともありまして、今回、駅東地区の町並みに限定せずということで書かせてはいただいておりますけれども、駅前というか、駅周辺のにぎわいというか、そういった言葉に変えていこうかなというような意味でありまして、東と西とかという考え方ではなくて、選んで言葉で連想されるところに対しての取組というがある程度限定されるというか、難しい部分も出てきているので、もう少し大きな視野で駅前の活性化というようにところにつなげていくような指標に変えられないかというような意味合いでございます。

◎委員（宮川 隆君） まず、市街地の基本的なことの右一番上のところの括弧に書かれている今後の市街地の活性化に向けての一つのコンセプトとして、人口減少の問題や、それから高齢化の問題、そしてリニアの効果をどうやってこの岩倉市に誘導するのか、反映するのかということを検討していく必要があるということにまとめられているわけなんですけれども、リニア

に関しては皆さん御存じのように、静岡県知事とJR東海の関係で少し遅れそうだということですね。逆に言えば、執行猶予というか、少し計画を立てるのに余裕ができたのかなという見方もできると思うんですが、そういう社会的な部分とは別にもう少し狭い目を見たときに、この愛知県の北西部というのは、航空宇宙産業を中心とした開発を今の知事も進めているというところだと思うんですね。

特に豊山町よりも北に位置する41号線沿いの地区をどのように今後変えていくのかというのが、愛知県全体の中でも考えられるべき課題だと思うんです。実際にいろんな流通の移動であったり、それから工場設備の移転であったりということで、実際には扶桑であったり、それから小牧であったりというところで大きく動いているわけなんですけれども、そういうことを踏まえた上での岩倉市が今後どのようなまちづくりをしていくのかという指針みたいなものというのは、5次総の中に含まれて具体的に書き込まれていく予定なんではないでしょうか。

◎委員長（黒川 武君） 今の宮川委員の質問というのは、近隣市町の中で岩倉が果たすべき役割はどういうものかということが指針で明らかになれるかどうか、そういう意味合いのことでしょうか。

◎委員（宮川 隆君） 今、特に広域行政というところで進んでいると思うんです。ですから、岩倉市だけがということではなくて、その中での岩倉市の位置づけというものを踏まえて、どうやって総合的に岩倉市が埋没しないという表現がいいのか、それともそれなりにちゃんと位置づけを持った市街地の整備を進めていくのか、そこら辺の考え方がどのように今後示されていくのかということをお聞きしたいなということです。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

非常に難しい御質問なんですけど、基本的な考え方は、やはり市の最上位の計画であり、10年後のまちづくりの目指すべき姿を示す総合計画になりますので、そうした周りの動きも意識しながら計画づくりを進めているというのはそのとおりかなと思いますし、一方で、やはり周りを気にするところよりは岩倉市としての課題、それが周りの状況、周りのまちづくりを踏まえた課題というのもあると思いますけれども、岩倉市としてどのようなまちづくりをこれまで進めてきて、それをどう進めるのかという視点で検討をしておりますので、広域的な視点を全く無視しているわけではないですけれども、やはりその中心の中に岩倉市があって、岩倉市がどうあるべきかというところを示していく計画であると思っています。

その中で中心市街地というところなんですけれども、今回、10年前からす

ると、随分と町並みもまた変わってきているところであり、特に駅東ですけれども。計画道路、先ほど出ましたけど都市計画道路もまだ予定もございませんし、まだまだ今の駅東の状態が理想的な状態ということではありませんので、今後の10年で岩倉市としてのにぎわい、人口減少にもならないような、人口も維持しながら活力を保ち続けられるような市街地としてふさわしい整備というものを目指して、どこまで書き込められるかは別ですけれども、考えてきたいというふうに考えております。

◎委員（堀 巖君） ここで一番重要なところは、国の逆線引きの推奨というところと、岩倉市がどう市街化区域を形成していくかという将来都市像との関連ですよね。

それで、極端なことを言えば、この便利な岩倉市で、市街化区域を100%にしたほうがいいのではないかという意見も、多くの市民の方もお持ちだというふうに思いますので、そこら辺をどういうふうに固めていくのかというところをどのように考えてみえるのでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

市街化区域の拡大に関しては、第4次の計画でもその検討ゾーンというものをお示しして、その間、内部的には議論もして、何とか拡大することができないのだろうかということも考えておりますけれども、やはり世の中として、日本として人口減少をし始めているさなかに、いずれ住宅も減っていくだろう、減っていかざるを得ないだろうという見込みの中で、市街化区域を拡大するというのは、なかなか国の考え方であったり、県としての広域の考え方の中で認めていくのは難しいというようなことでお聞きしております。

一方で、確実にその受皿というか、そういった部分が足りなくなるような政策的な部分も加味すれば、不可能ではないよというようなことも言われておるといいますので、岩倉市とすると、1つ、川井野寄の工業団地であったりだとか、開発によって雇用が生まれ、人が岩倉に住んでもらって、その受皿として、一定、市街化区域への編入が必要になってくるようなことも視野に入れた計画になってくるんじゃないかなあとは思っています。

都市計画マスタープランのほうで、やはりそのあたりを優先して検討している部分にはなりますので、そこと歩調を合わせた計画になってくると思います。

◎委員長（黒川 武君） 他によろしいですか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） ないようですので、次の基本施策、住宅に入ります。

◎委員（谷平敬子君） 高齢者の住み替えの支援のところなんですけれども、成果・到達点というところがあって、住み替え助成制度の利用はありませんでしたと。積み残し課題及び新たな課題というところで、制度の見直しの検討、周知に努めることが必要であるとありますけれども、この助成は75歳から受けられると思うんですけれども、金額にしたら20万円ぐらいだったと思うんですけれども、この75歳って、皆さん、市民の方も知っていない人もいると思うんですけれども、意外と70歳から75歳までの方が住み替え、例えば団地で上のほうにいたら下のほうに移動したいというか、そういうことも含めてそうしたいなと思っても、この助成制度が75歳となると、そこを利用できないという面があるんですけれども、そういったことは、今後、年齢を75じゃなくて70歳からとか、変えるというか、そういう考えはありますでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

こちらにありますように、担当課とすれば制度の見直しも含めて検討したいと。その理由がなかなか利用が進まない部分であるとかという課題認識を持ってみえますので、その内容について担当課のほうにお伝えさせてもらいたいと思います。

◎副委員長（木村冬樹君） 関連してですけど、私は高齢者の住み替え事業というのは、他市にない岩倉市の優れた制度だというふうに思っています。

それで、実績がないというのはなぜかという、岩倉団地の1階部分に高齢者向け優良賃貸住宅という位置づけがされている住宅があって、そこに引っ越した場合のみに適用される制度だもんだから件数がめちゃくちゃ少ないんですよ。だけど、この高優賃という部分を、例えば市内のほかの岩倉団地以外のところの賃貸住宅に広げるということが、民間の事業者の協力も必要ですけど。

ところが、国は高齢者優良賃貸住宅の制度を一応廃止したんです。それで、岩倉団地の場合は整備はされているんだけど、家賃の助成というのは、もうその人が引っ越せば、そこに新しく入ってきた人が住んだとしても家賃の助成は受けられないんですよ。そういう制度になっている。だから、国がもうその制度をやめてしまったという感じになっている制度で、このことをどうやって維持していくのかというのがすごく難しい問題になってきているなあというふうに思っています。

だから、僕も何回か一般質問で市内の岩倉団地以外でも高優賃みたいな制度を利用できる整備を進めてほしいということも何度も言ってきたんですけど、ちょっとそれはできていないのが現状で、この施策をどう位置づけてい

くかというところは、今後ちょっと難しい問題があるなというふうに思っています。ただ、バリアフリーだとか、そういう点で言えば、きちんと整備されているのは岩倉団地にあるもんだから、そこを利用していくというのは、一つ方法かなというふうに思っていますけどね。

だから、高優賃という制度に乗らずに住み替えの助成ができるような、バリアフリーの住宅に助成ができるような、そういった制度を目指していくべきじゃないかなというふうに僕は思っていますので、ちょっと谷平さんの質問の答えになるかどうか分からないんだけど、そういうことも含めて5次総計の中には入れていかなきゃいけないというふうに思いますね。情勢的に高優賃の制度がなくなって、そしてどうやって住み替え助成をやっていくのかというところは、次の段階でまた考えていかなきゃいけないような気がしますので、ちょっと担当課に意見をして反映させていただきませうようによろしくお願いします。すみません、意見です。

◎委員長（黒川 武君） 他にございませんか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） ないようですので、次の基本施策、景観形成へ入ります。

◎委員（堀 巖君） 景観で言うと、最近、市行政は景観法であるとかに、ちょっと後ろ向きなイメージがあるんですが、それに関連して、岩倉街道の町並みの形成であるとか、そういったところの景観について、第5次総計ではやっぱりそういう後ろ向きな姿勢を取り、それがこの三角を廃止にしていくなかどうかということにつながっていくと思うんですが、現状での考え方はどうなんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君） 後ろ向きというところの表現が適切かどうかは分かりませんが、なかなか難しい課題であるという認識の中で、新たな施策の体系というものを考えて検討している状況であります。

◎委員長（黒川 武君） 他にございませんか。

◎委員（堀 巖君） 景観法とは関係ないかもしれませんが、やっぱり「健康で明るい緑の文化都市」という将来都市像は堅持しつつ、第5次総計をつくるのであれば、ここの景観も田園風景の景観であるとか、そういった特徴的なところを強調するような施策、事業をどのように展開していくかということが重要になると思うんですが、その点はいかがでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君） 景観に関する部分での田園風景という見方、結果的に良質な景観を生んでい

る素材だとは思いますが、今回の第5次の中では、田園風景を守るというよりは、農地をしっかりと維持していくというようなところの考え方で整理になろうかと思っています。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はございませんか。

◎委員（榎谷規子君） 文化財保存とかと関連していくと思うんですけど、割と保健センターといわくら塾と共同してウォーキングとかのときにいつも、ああ、こんなところが岩倉にあるんだと改めて発見するような神社やお寺の様々な岩倉の文化、町並みがあるので、歴史と文化とよく一言で言われますけど、そういった内容もこういう景観形成の中にもっとPRして入れていくようなことはどうなんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

文化・歴史をしっかりと語り継ぎながら、いろんな人に広めていくというのは大変重要な部分ではありますけれども、景観というところで、その内容を整理するというよりは、文化財とか、市民文化活動とか、そういったところで整理をする。あるいは今言われた内容は、恐らくいわくら塾さんの観光ボランティアガイドの活動と保健推進委員さんの活動がマッチした事業の話だと思いますので、町なかを歩くということによる健康づくりの話と、岩倉の歴史を使って皆さんに案内をするというところは、可能な限り続けていきたいというふうには考えております。

◎委員長（黒川 武君） 他にございませんか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） それでは、次の基本施策、上水道へ入ります。

委員の発言を求めます。

◎副委員長（木村冬樹君） 安心で安定的な供給ということで有収率が成果指標になっています。有収率というのは収入になる水道の供給量のこと、だから、有収率が下がるということは、主な原因は漏水なんですよ。

この間でも漏水が限りなく起こっているというか、毎月起こっているような状況で、晴れた日に道路がぬれていたら、それは漏水だというふうに思いますが、そういう状況なんです、岩倉市内は。だから、これを本当にやっと思いこうと思ったら、この中の単位施策の中の水道施設の計画的な整備・更新、これをしっかりやらないと、ここは絶対二重丸になっていかないというふうに思っていますが、全部二重丸評価されていますけど、有収率はやっぱり下がってきている傾向にあると思います。

だから、全体として単位施策の整備・更新というところに力を入れながらやっていくということ強く打ち出していく必要があるというふうに思いま

す。岩倉市のこれはやっぱり一つの課題だというふうに思っていますので、そういう位置づけでぜひ計画に入れていただきたいということを担当課に伝えてください。すみません、意見です。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

弁明チックではありますがけれども、現状二重丸となっているのは、計画を立てた分をしっかりとやっているというところでの二重丸。今、木村委員が言っていたのは、今の計画どおりではいけないよと。もう少し高いレベルで整備を推進して行ってほしいよということだと思いますので、そのあたりの話はこの有収率の議論の中でしております。

今年度予算で水道事業の経営戦略を策定するといった予算が含まれていると思います。そうしたところを踏まえた計画にはなってくると思います。具体的に金額とか、そういうものが計画に乗ってくることはないですけれども、やっぱり老朽化してきているのは事実でして、水道事業の経営面の部分は相当心配な部分もありますので、そうしたことを踏まえた計画にしていこうということにはしております。

◎副委員長（木村冬樹君） そういったことも含めて経営戦略というのをつくるというのが、今水道のほうで立てられています。これがあと何年か後にできていくわけなんですけど、やっぱり有収率を高めるということが僕は一番大事だなというふうに思っています、安易に水道料金を値上げして経営を立て直していくというような方向は、やっぱり絶対、市民にとってはいい方向じゃないもんですから、そういうところで、今後の10年の第5次総計は経営戦略をどうつくるかというところが一つ大きな柱だというふうに思っていますので、そういったことも念頭に置いて計画づくりをお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

念頭に置いて取り組ませていただきますが、なかなかやはり原資という部分がなくて修繕だとか、そういった更新の費用をといるところも、本当に微妙なバランスで水道事業のほうもやられているというふうに思いますので、もちろん安易な値上げなんていうのは、とてもじゃないけど口には出せないところでもありますので、そのあたりを視野に入れながらしっかりとした計画をつくって行ってほしいし、私どもも総合計画の中ではそんなような形で取り組んでいきたいと思っています。

◎委員（梶谷規子君） あまり記述はないような気がするんですけど、岩倉の自己水源を守っていくというところは、やはりこの間、ずうっと県水の割合が増えてきているんですが、このまま県水の割合を増やしていくのか、自

己水源を守って水道料金を抑えるためにも、いい水源を残していくためにも
というところは大事だと思うんですが、そこら辺はどのような方向でしょう
か。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

細かい何割が目標とか、そういったことはお聞きしておりませんが、
自己水源を維持しながら水道の事業を運営していくというのは、方向性とし
て間違いなくそのとおりで、とはいえ、全体のバランスを見ながら両方の水
で全体を回していくというのがこれまでの形ですので、細かなバランスの違
い、変更はあれども、自己水源をしっかりと確保しながら水道事業を運営し
ていくという方針に変わりはないと思います。

◎委員（堀 巖君） 先ほどの水道の経営戦略という観点から言うと、耐
震化率のところは非常に大事なところだと思っています。これはやっぱりリ
スク管理というか、リスク回避をする上でこのパーセンテージが、これもあ
まりに低過ぎる、目標として。今後、第5次ではどのぐらいの程度の耐震化
率の計画になっていくかという議論はどのようにされているのでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

これまで以上に進めていく方向でこちらからは意見をしております。

◎副委員長（木村冬樹君） 管路耐震化計画で100%にしていくという計画
があるから、4次総計はそうだったかもしれんけど、5次は100%にならな
いの。なるよね。

[発言する者あり]

◎副委員長（木村冬樹君） まあいいや、今のは雑談ですけど。

◎委員長（黒川 武君） 何か補足でありますか。

よろしいですか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

経営戦略の中でも、そういった投資とのバランスというのがあると思いま
すので、そこの議論を踏まえたこちらでの目標設定になってくると思いま
すので、もちろん100%になる、そのような考えでいるとは思いますが、
ちょっと細かな部分は、すみません。担当課にお伝えしておきます。

◎委員長（黒川 武君） その他発言はございませんか。

[挙手する者なし]

◎委員長（黒川 武君） それでは、基本施策、下水道へ入ります。

委員の発言を求めます。

◎委員（大野慎治君） ずうっと触れられていませんが、五条川右岸整備の
ほうでずうっと記載が進むんですけど、五条川左岸の下水道管の老朽化とい

うところがどこにも触れられていないと。もうそろそろ更新ということが触れないといけないと思うんですが、そういった議論は進んでいるんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

課題認識は持っております。今ですと整備と維持管理という整理になっておりますけれども、具体的に左岸のところに言及するかは分かりませんが、これまで以上に維持管理の重要性が増してくるという認識は持っていますので、そうした記載になってくるのではないかなあというふうに思います。

◎副委員長（木村冬樹君） 五条川左岸浄化センターの関係で言うと、長寿命化でずうっと工事は続けられていますので、いろいろやっているのは間違いないです。

一番大きな課題は、あそこにある焼却ですね。減量化施設……、要するに焼却炉ですけど、あそこがもうやっぱり耐用年数を過ぎてきて建て替えをしなければいけないということになっている状態で、そこをちょっと今は国からの補助金が出ないということで先延ばしをしているというのが現状だというふうに思います。だから、そういうことも含めて、今、大野委員が言ったような左岸の維持管理というところを少し位置づけて、計画に入れていくべきだなというふうに思っています。

市は必ず公害防止委員会に出ていますので、県と必ずやり取りをしているというふうに思いますので、そういったところで力添えを頂いているところなもんだから、計画に入れていただきますように僕もお願いしたいというふうに思います。

◎委員長（黒川 武君） 企画政策グループ長、よろしいですか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

情報共有して検討させてもらいます。

◎委員長（黒川 武君） 追認すると。ありがとうございます。

他に発言はございますか。

[挙手する者なし]

◎委員長（黒川 武君） 特にないようでありますので、これをもって第4章のほうの検討を終了させていただきたいと思えます。

ここでどうしましょう。若干休憩を取りましょうかね。

[「そうしましょうか。ちょっと休憩しましょうか」と呼ぶ者あり]

◎委員長（黒川 武君） それでは、15分から再開ということにいたしますので、後半のほうもよろしく願います、スピード感を持って。

じゃあ15分まで休憩といたします。

(休 憩)

◎委員長（黒川 武君） 休憩を閉じ、会議を再開します。

次は、第5章についてを議題といたします。

第5章の基本施策、農業から入ります。

委員の発言を求めます。

◎副委員長（木村冬樹君） 久保田市長のマニフェストの中に近郊農業の推進化、振興化があったというふうに思うんだけど、なかなか具体策が見えてこないというところが議会でも議論になっていたところだというふうに思います。

それで、農地バンクという事業が提起されて1年ぐらいになると思うけど、それも多分、僕、あまり進んでないんじゃないかなというふうに思うんですね。

だから、農業で農地を持っているけど後継者がいないだとか、自分の体力の問題も含めて農業が続けられないだとかという人たちと、農業をやりたいという若い世代と、これをマッチングするような施策がやっぱり必要だなあということで、僕、農地バンクの事業はすごく大事だというふうに思っています。成功させたいなというふうに思っているんですけど、そういうところを岩倉の近郊農業を発展させるという点では、一つの策だというふうに思っているもんですから、5次総計の中できちんと位置づけて進めていただきたいなあというふうに思いますが、そのように担当課に伝えていただきますようお願いしたいと思います。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

はい、お伝えさせていただきます。

◎委員（梅村 均君） 名古屋コーチンの消費拡大ということで、次期も目指していくというような感じなんですけど、名古屋コーチンの取扱いが農業でいいのかどうかというのが少し疑問がありまして、何というか、これを広める上では商業振興の視点を持ったほうがいいのかとか、例えば伝統文化という視点から何か対策したほうがいいのかとか、そんなことも思うわけですけども、何かこれを農業でやるというふうなこだわりというのか、そんなような議論というのは何かありませんでしたでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

大いにさせていただきます。例えば小牧市さんは、観光の資源の一つというようなところで、発祥の地ということで手広くやられております。

岩倉市においても、そういった考え方がないわけではなくて、やっぱりひきずりを食べる文化だとか、多くのお店で取扱いがされているというところ

はあるものですから、そういう視点を持ちながら、一方で、やはり養鶏ふ化場がありますので、畜産業としての支援というのをベースにおきながら振興を図っていきたいという方向性というところで落ち着いているところです。

◎委員（梶谷規子君） 地産地消型の農業の推進のところで、指標で野菜の広場、JA愛知北産直センターの利用の市民の割合が、平成30年度の数値が入っていないんですが、これはどうしてなのでしょう。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君） 基本的に5年に1度、市民意向調査をやっています、その市民意向調査で聞いていないものを、指標のためにアンケートというのを設定させてもらっています、30年度は市民意向調査の年だったので、指標アンケートがないため、数値が取れていないという状況であります。

◎委員（堀 巖君） ちょっと細くなっちゃってすみません。

農地の保全・活用の(1)のところの指標の話で、指標の見直しを検討するというふうに書いてありますけど、農業体験の参加者数だとか、市民の割合なんていうのは全く意味のない数字だと個人的には思いますが、どのような見直しをされる予定なのでしょう。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君） こちらのアンケートの指標は使わないという方向であります。まだ検討をしているところでもありますけれども、別の個別施策に関係のあるところの指標を設定していく予定であります。

◎委員長（黒川 武君） 他にございませんか。

◎委員（大野慎治君） 一番上のところの主な積み残した課題のところで、一番いつも話題となる水田の担い手となる農作業を受託するオペレーターが高齢化しており、後継者問題の解決が急務となっていると書いてある割には、指標の(2)の①オペレーターの育成・経営支援のところで丸になっているという。急務になっているのに丸になっているところが、ちょっと僕は相反するかなと。

そこのところのオペレーターの後継者というのはずうっと、ここ数年じゃなくてずうっと課題となっていますけど、ここの表現というのはどういうふうにしていくのかなあという。今方向性というの、どういうふうな考え方なのかお聞かせください。

◎秘書企画課長（伊藤新治君） ここで言っているところのオペレーターというのは、もう今のオペレーターの方が高齢化しているというところで新たな担い手なんですけれども、アイファームの方で若い方も少し、アイファームの中で、まだオペレーターにはなっていないんですけれども、岩倉の農地

を請け負ってやっている方が見えますので、そういった方を育成していくという意味で丸になっています。

◎委員長（黒川 武君） 他にございませんか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） ないようですので、基本施策、工業へ入ります。

◎副委員長（木村冬樹君） 先ほど宮川委員が言ったような企業誘致の問題で、ここの部分で、4次総計では環境に優しい企業の誘致に努めますというふうだけど、もちろん文言は5次の中で、実際に具体化されていくということだと思いますので変わってくると思うんですけど、今公害を排出するような企業はほとんどないというふうに思いますけど、いろいろ最先端だとか、航空宇宙産業なんていうことで言うと、下手すると軍事的なものに利用されるような企業が誘致されるということも可能性としてはあるわけで、そういうところも含めて安全な岩倉というところも含めると、検討が必要かなというふうに思っていますけど、そんなようなことは、何か検討の余地はあるんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

現在進んでいるというか、川井野寄の企業に関する部分は、すみません。私も全く情報を知り得ておりませんので、しっかりとした選定がされていくものと思っています。

次期計画においては、やはり環境に優しいという言葉は使わない方向で話をしています。おっしゃられるように、一定、法的な縛りもあって、そういう文言を使わなくても、適正な形で業務を行っている企業であればよいのかなという部分がありますので、言葉は変えていきますけど、具体的な業種までをこの中に書いていくということでもない形で検討していきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はございませんか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） ないようですので、次の基本施策、商業へ入ります。

委員の発言を求めます。商業です。

◎委員（梅村 均君） 目標値の指標の件ですけれども、数値がちょっと出てきていないので、この辺はどうなっているのかなという、商店の数とか、年間商品販売額が平成26年以降は出ていないんですけど、このあたりはどんな検証をされているんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

もともところらの記載もありますけど、商業統計調査によるという言葉があります。商業統計調査が統計の統廃合というか、効率化というようなところで少しやり方が変わってしまっていて、数値として把握が難しい状況になってしまっていますので、ここの部分の細かな分析というのは、正直できていないということになります。そうしたことも踏まえて、次期計画でどういった指標を取っていくかというのは、細かな部分で今検討をしているところであります。

◎委員（梅村 均君） 分かりました。

もう一つ、指標のことですと、日常の買物の便利さに対しては、非常に満足されているので、今満足している人が多いので、これからの商業施策というのはどうやってやっていくのかなという、非常に満足している中で、これ以上求めていくというのはすごく難しいんだろうなというふうに思うわけですが、それはそれで高いところを目指してもらいたいという意見と、それとは別に施策が目指す将来の姿で、1つ目の丸のところに書いてあります市民ぐるみの商業関連イベントが盛んになって、岩倉駅前と五条川に続く中心市街地がにぎわいと憩いの場になっていきますという将来の姿を描いたんですが、この辺というのはまだできていないので、積み残し課題とかに入れないながら取り組んでいくべきじゃないかと思うんですけれども、そういったような議論はなかったでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

成果・到達点というあたりで、この部分がどこまで達成できたかという話は意見を交わしてはおります。

次期計画についてですけれども、根本的な部分でいきますと、ちょっと商業と先ほどの工業というものを一つに合わせて施策として推進していきたいという考えを持っております。内容的にも、現計画の中も重複する部分もあったりしておりますので、岩倉市としては、それを分けて推進していくというよりは既存の企業、また新たな企業の誘致もありますけれども、一体になって推進をしていこうということで考えておりましたので、その統合に合わせたふさわしい目指す将来の姿というところで、今検討しているところであります。

先ほど少し中心市街地のほうで出たところもあるんですけれども、中心市街地がにぎわいというあたりの言葉というのが、そちら側のほうに寄っていくようなイメージになろうかと思っております。

結果、今回、結構ポイントになると思うんですけれども、商業的な部分をメインにしたにぎわいと言うんですか、商店をベースにしたにぎわいというのが、果たして現代の中で達成できるのかというようなところを結構議論

しておりまして、そうしたところも踏まえて検討をしているところであります。

◎委員（堀 巖君） 今の意見に対してはちょっと疑問というか、反対的な意見なんですけど、やはり商業と工業と経営ベースで利益が出る出ないというところの市の行政的な施策として応援する、支援するという観点で言えば一緒だと思うんですけど、まさしくさっき言った市街地の形成だとか、まちづくりとの商業と工業との位置づけは全く違うわけで、やっぱり工業でさっき雇用が生まれて住宅ができるという側面もあるけど、商業とまちづくりを結びつけないことには、まちの活性化は生まれえないということで、将来都市像として大きく分かれるところなんですよね。

だから、やっぱり多角的に多面的に商業を捉えるとなれば独立して、再掲としてさっきのまちづくりのところと再掲でもいいけれども、商業と工業をまとめてしまうというのは、僕はちょっと甚だ疑問に感じます。以上です。意見です。

◎委員（梶谷規子君） 私は、農業と商業・工業を連携してという商業振興に努めるというところで「夢吟香」が記載されているんですが、かなり前に6次産業化を岩倉は目指せないのかと質問をしたときに、6次産業というのは岩倉ではとてもというところが、「夢吟香」で実現できたということは非常に大きいとっていて、やっぱりこれが岩倉総合高校の生徒がラベルをデザインして書いて、なお学校とのコラボでより販売数も増えたみたいな経過があると思うんですけど、そういった6次産業化で商業の振興というのは、今後もっと追求していけるというか、いきいたいところじゃないかなと思うんですが、どうなんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）
大いに期待したいところであります。

今回、50周年に合わせて名産品を開発しようというような取組も検討しているところでして、その中で岩倉で取れる農産物の種類、量というようなものは調べながら、そういった商品化につなげられないかということも検討していきたいというふうには思っています。

そういう意味では、先ほどの名古屋コーチンの話ではないですけども、岩倉市としては商工農政課という一つの課の中に、農業の担当と商工、観光の担当がおりまして、御存じのとおりだと思いますけれども、この施策の分かれたとか、そういうところではなくて、課としても一体的に農業も含めて産業を育成していきたいというようなところでありますので、いろんな可能性を含めてまちづくりを進めていきたいと考えております。

◎委員（堀 巖君） ごめんなさい。さっき意見と言いましたけど、ちょっと聞きたいことがあるんですけど、さっきの関連して、このまちのにぎわいの創出のところの指標で、市民はにぎわいがないと思っているんですよね。市民は例えばさっきの桜まつりが縮小傾向にあるように静かな岩倉市で、ベッドタウンとして過ごしていきたいと思っている市民の割合が多いのか、逆にさっき言ったように、にぎわいのある大須の商店街のような、そういう活気のあるまちがいいと思っている市民が多いのか、それによって行政はどのように、どっちの方向に向いてかじを切っていくのかというところが重要になっていくと思うんですよね。そこら辺の考え方はどうなんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

そういう部分でいいますと、やはり市民の中にも様々な方がいらっしゃいます。考え方のベースとして、今回、市民意向調査の中でも少しどういうものがにぎわいとして求められるか、そのにぎわいの中に自分も参加していきたいかというような意向も聞いています。

全体的な傾向とすると、その地域に住んでいる人は静かなほうを望んでおり、少し離れた地域に住んでいる人はにぎわいを望むと、この傾向が結構顕著に表れていまして、まちとして必要かどうかという部分であれば、なお必要だという認識の下に計画づくりも進めていかなくちゃいけないと考えています。

◎委員（宮川 隆君） 将来の商業の在り方という部分で、先ほど工業化に伴って云々というような話が出たときに、ああ、企業城下町みたいなものを目指してみえるのかなというふうに捉えなくもない。要は従業員が集まればその周辺に商業が自然発生的に貼り付くわけですし、今、名草線の拡幅がこれで進めば、また名草線の周辺にもそういうものが自然的に貼り付いてくるのかなというふうには思っています。

それはそれで自然の成り行きなのかなというふうには感じるわけなんですけれども、半面、3次総、4次総をつくったときの消費者の動向としては、郊外型の商店というのが重要視されていたような時代であったと思うんですね。

ここ最近、コロナの関係で多少ネット流通みたいなのが見直されたりはしているんですが、高齢化の中で求められている商業地区の在り方というのが、学者曰く、身近なところに歩いて、要は手押し車置いて一日ベンチに座りながら、子どもたちのにぎわいの声を聞きながら必要に応じて物を買って帰ると。要は生活圏内の中での商店の在り方みたいなのが見直されているというふうに言われたわけですね。そういうことを考えると、一番それが誘

導しやすい、市の方針としてつくり上げていきやすいというのが、やっぱり駅東だというふうに僕は感じているところなんです。

ですから、規制をどうのとか、それからアーケードを造ったりだとか、大々的なことまでは今考えてはいないんですけれども、やはりこの辺であれば飯田であったり、長野の駅前であったり、それから旭川だったかの駅前であったり、そういう生活圏の中での居場所としての商店の在り方みたいなものがこれから重要視されていくと言われている中で、やっぱり作為的に市の行政がこういう商店街をつくるんだというビジョンを示しつつ、それに必要な施策を打っていくというのが、今後大切な5次総の時代背景なのかなと捉えているんですけれども、そういうことを考えつつも、何らかの形でこの位置づけはされていくんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

非常に難しい話ですけれども、一つの考え方として、やはり交通の利便性の高い岩倉市の駅前に大規模な商店街というのが成り立つのかどうなのかというあたりも非常に重要なポイントかなあと思います。

高齢者の方も駅周辺での住まうことを好まれるような傾向もあるというふうにもお聞きしてまして、一つのキーワードとすると、暮らすことと商業というのはかなり密接に関係していることは、もう皆さん御承知のとおりだと思ひまして、住と商の複合的な関係性というか、そういったキーワードを持ちながら、お店がずっと並んでいるというよりは、住まいの近くに必要なお店があるというような考え方になっていくんじゃないかというような方向性を検討しています。

◎委員（宮川 隆君） そういうとき、5次総に盛り込まないんですか、そういう考え方が。

◎秘書企画課長（伊藤新治君） ですので、駅東のところに新たな商店街を、例えば桜通線に合わせてつくっていこうという計画にはなっていないと思います。

[発言する者あり]

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

最初に検討していますと言ったんですけど、そういった要素がちりばめられた計画にはなってくるとは思います。直接的にそういうことを目指すというようなことは書き込めないと思いますけれども、そういったことなのかなあというようなことは見え隠れするような施策の体系になってくると思います。

◎委員（宮川 隆君） 商店街の再形成みたいなことをイメージするよりは、先ほど課長が言われたように生活圏の中での、要は商業と生活というものを

共有できるような拠点的な、駅東が一番あるのかなと思うんですけども、そういう拠点としての位置づけを持って、ただただ今の規制の在り方だとか、それから商店の高齢化をどうするかというような目先じゃなくて全体像、あの地区の全体像はどういうふうに考えていくかという一つのコンセプトとして商業というのがあってもいいのかなと思ったんですけども、どうなんでしょうかね。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

もちろん商業は必要だと思っていますので、商業というものが前面に来て、商店街のようなものを整備していくというイメージではないということです。必要な要素だと思っていますので、そういった内容になってくると思います。

◎委員（堀 巖君） ちょっとさっきの確認なんですけれども、見え隠れすると言ったけど、何が見えて何が隠れるんですか。

◎秘書企画課長（伊藤新治君） ですので、にぎわいは大事だと思っていますし、駅東を中心にしたにぎわいづくりはやっていきたいということは確実に考えているんですけど、商業をメインのにぎわいづくりじゃなくて、いろんなものがちりばめられたにぎわいづくりを目指していくというところ、商業がターゲットというか、商業でにぎわいづくりをつくっていこうという商業ありきではないというところで考えていきたいと思っています。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はございませんか。

◎委員（大野慎治君） つまり今まで岩倉ではやっているお店屋さん、岩倉市が応援していたわけじゃないんですよ。今はやっているお店って、実は自分で出てきてくださって自分ではやっている。活気があるお店って実は何も補助をもらってなかったりしてやっている。

だから、駅近くにいなくてもはやっているお店ははやっているし、遠くてもはやっているお店もあるので、ある意味、何て言うの……、そういったイメージということなんですかね。どういうイメージなのかというのが、もうちょっと補足していただければありがたいんですけども。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

そのお店に対する支援という意味合いの話で言うならば、基本的には、やはり努力されているところに対しての支援をしていきたいなあという考え方はありますけれども、今はエリアとして見たときに、その中心に商業を置くという考え方ではなくて、人がいて、人が集まって、その上で必然的に商業が成り立っていくと、そんなようなコンセプトかなあと思うんです。

ですので、もちろんその近くに一定の人口が住んでいる、一定の人が動く

という事実が分かっているならば、商売をしていく中での環境としては悪くないわけですし、そういった環境を意識しながら駅東地区というのを見ていきたいというようなところでは。

◎委員長（黒川 武君） あとはどれだけ計画に具体化されるのかという、まさに第5次総での検討事項になるのかなと思います。

それでは、次の基本施策、消費生活へ入ります。

意見を求めます。

◎副委員長（木村冬樹君） 単位施策の2つ目の消費者被害の救済ということで、成果指標が消費生活相談の窓口があるということを知っている市民ということで、目標に対して10%ぐらい低い状況です。

先日も一般質問をしたところ、消費生活センターが新しくできて、月曜日から木曜日まで午前中開設していますが、これだけいろいろ特殊詐欺の前兆電話がかかってきたりだとか、実際に詐欺に遭っている人たちも、実害に遭っている人たちもいるし、一歩手前だった人もいてということで、答弁の中では、消費生活センターの相談件数は1件しかなかったという、給付金に対する申請代行について1件あったということでありましたけど、やっぱり今コロナの、家に高齢者がいるという状況の下でこういうのがたくさん出てきているというふうに思うんですけども、非常に重要な課題だなというふうに思っています。

ですから、この指標を高める努力をするということで、これは据え置くというふうに思いますけど、そういう方向で強めてもらうということ、さらに目標値を高めるだとか、そういうふうにして何かがあったら消費生活センター、あるいは市民の中では協働安全課に問合せをして助かったというケースもあるもんですから、そういうことも含めて消費者被害に遭わないための努力というのか、それをちょっと強めてほしいなあというふうに思いますけど、何か今後の5次総で考えていることがあったら教えてください。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

指標のほうは、今は言葉で言うとセンターという言葉に切り替えていきますけれども、据置きといいますか、指標は残しながらより高い目標にしていけるといいなあということは話しておりますが、実態がちょっと今あまり好ましくないような数字になっていますので、そのための努力をしていく必要があると思っています。

担当のほうもいろいろ考えていますので、そういった内容が見える形で計画のほうに出てくるのではないかなと思います。

◎委員（堀 巖君） 消費生活という単語、言葉自体が、特にさっきの悪

徳商法とか詐欺とか、そういうところに結びつきがちなんですけど、ここに書いてある豊かな消費生活というところが積極的な言葉の捉え方だと思うんですね。

その豊かなというのは何かというと、あと安全・安心と書いてあるけど、やっぱりそれは例えばエコだったり、環境だったりというところとも結びついていくというふうに思うんですが、そこら辺の考察はどうなっているんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

今、消費生活講座であるとか、消費生活フェアなどでそうした取組も一方でしておりますけれども、今後ますます重要になってくるかなあと思うのは、消費者教育というようなキーワードで、成人も18歳に引き下げられていくんだとか、そうなるといういろんな環境の変化が起きてきますので、できれば市のほうとすると、若年層からそういった様々な情報をインプットしながら、適切な判断がしていけるようなことを考えていまして、その先に豊かな消費生活といいますか、賢いといいますか、そういった言葉につながっていくのかなというふうに考えておりますので、まずはその足元の教育というようなところに力を入れていくような形だというふうに聞いております。

◎委員（梶谷規子君） 豊かな消費生活の面では、一番最後に書いてある環境に優しい消費生活の普及のところでは、環境に配慮した云々とか、そういうものを買うとかどうの、廃プラの問題とか、レジ袋有料化とか、そこら辺は廃棄物とかのほうで書かれているだけだと思うんですけど、消費生活の面でもより、今、このコロナの時代にテイクアウトがすごく普及されたんだけど、テイクアウトというと、すぐやっぱりプラスチックの容器で廃プラがすごく増えちゃったりとか、そういった面があり、いかにテイクアウトでもプラを少なくするような努力などがどうできるのかみたいなのところも思ったり、考えたりしてきたんだけど、市民のみんながストローは要らないとか、そういった意識を持っていくとか、何かそういった部分でも、この部分に記述を増やすみたいなのところは考えないでしょうかね。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

今のところそういった考えではなくて、環境の部分でしっかりと書き込んでいくという考えの下で整理をし始めております。

〔発言する者あり〕

◎秘書企画課長（伊藤新治君） 一番最初のお話ししたんですけど、今の章も個別施策も減らしていこうというところで考えていまして、主要な

ところで書かせていただいて再掲再掲となっていくと、また第4次の総合計画と同じことになってしまいますので、書いてないということじゃ駄目だと思うんですけれども、主要なところで書いて、こっちも必要だからと言い出すと、多分、全部が全部ほかのところにも係ってくる施策になると思いますので、その辺は少し整理はさせていただきたいなと思っています。

◎委員長（黒川 武君） 他にございませんか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） それでは、次の基本施策、勤労者福祉へ入ります。委員の発言を求めます。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） 特段、発言がないようでありますので、最後の基本施策、観光・交流へ入ります。

委員の発言を求めます。

◎委員（梅村 均君） (1)の①で五条川桜並木の保全・再生というところですけど、記述の最後のほうにも、市民全体で桜を守っていくという機運を高めますということが書かれております。すごく大事なことだなと思ひまして、こういった市民がどのぐらい関わっているのかというのを指標にしたかどうかと思うんですけれども、例えば私は募金していますよとか、活動に参加していますよとか、何でもいいので、どのぐらいの人がこの桜に関わっているかを指標にするといいんじゃないかなあなんていうのも思うんですが、いかがでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

非常に大事な部分だと思いますが、その指標として設定すると、それをどのように図っていくのかという部分の難しさもございしますので、数値として出していくのは、やっぱり難しいかなというふうに思います。なるべく多くの方に関わっていただくようにという努力はしていこうというところで、指標設定としては難しいかなあと考えております。

◎委員（堀 巖君） 今のところで言うと、何回も言うけど里親制度、アダプトプログラムで、桜一本一本を市民一人一人が担当するだとか、そういう考え方であると思うんですけど、そういった議論は、全くこの間、なかったんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

そういった議論が全くなかったということはないと思います。しかしながら、組織的な考えに至るところにも行っていないということで、いろいろとやっぱり課題もあるかと思っていますので、多くの方に関わっていただきながら市全

体で桜を守っていくという機運につながるような取組をしていく必要があると思っています。

◎副委員長（木村冬樹君） 単位施策の3の観光PR・イベント等の充実ということで、岩倉観光振興会を中心という言葉がすごくたくさん出てくるところで、何となく僕たちのイメージとして、観光振興会というのが1階にあって、市役所の一つの機関みたいな感じで捉えがちになってしまっているんだけど、実際はNPO法人なわけで、何となくこれから5次総計を進めていく間で、この観光事業について、今と同じような形で進めていっていいのかなという思いがあるんです。

要するに、観光に関係するものは全部そこに任せておけばいいわみたいなのふうじゃなくて、もちろん市がイニシアチブを取ってやっている事業だってあるとは思いますが、このNPO法人をどう市として位置づけていくのかということころは、少し考えなきゃいけないんじゃないかなと思っているんですけど、過去で言ったら観光協会をつくろうというような一般質問もあったわけで、そういうところも含めて5次総計でどう位置づけているのかということころは、何か考えがありましたら教えていただきたいと思います。

◎秘書企画課長（伊藤新治君） そのことは観光振興会について、もともと観光振興会がないときからずっと観光協会的組織が岩倉にも必要じゃないんかという議論をたくさん頂いていた中で、岩倉市では、お店やそういったところが負担金を出しながらやっていく観光協会ではなくて、自分たちでやっていくNPOという形の岩倉観光振興会。だから、市としては、観光振興会は、ある意味、岩倉市観光協会の位置づけだということでこれまでも支援してきましたし、そのために市役所の1階にスペースを貸し出して、あそこも使用料を頂いていますので、そういったところで観光協会的な役割を担っていただいて、活動をしてもらっているという認識でいますので、今後も観光振興会と連携しながら観光事業を進めていきたいと考えています。

◎委員（堀 巖君） 友好交流、地域間交流の推進のところで大野市なんだけど、いつまでこれ、大野市だけでやるのか、そこら辺のビジョンが全然変わっていないというか、婚活とかやっているけど、私からすればマンネリ化しているとしか見えないし、そこら辺の考え方はどうなっているんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君） マンネリ化しているという厳しい御指摘ですけれども、基本的なビジョンは継続して大野市と友好交流関係を続けていくと。事業としてなかなか活性化するような取組ができていないという部分もあるかなあというのは感じてお

ります。

道路網の整備だとか、やはりいろんなところの距離が近まっているところもあって、難しさを感じる部分はありますけれども、逆に高速道路が福井のほうから延長されて、道の駅も新たに来年できる予定だということを聞いておりますので、来年度は状況が許すかどうかは分かりませんが、50周年の事業の中でも少し大野市さんと連携した新たな取組を考えつつ、次なる展開みたいなものも考えていけるといいなあと考えてはおります。現状は大野市さん以外の都市との交流というところを具体的に検討はしていません。

◎委員（堀 巖君） これも多くの議員が一般質問で、私もしましたけど、なぜしないのかというところが非常に疑問なんです。あまり幅広くやっても意味がないと考えているのか、例えば大野市なんかはゆかりのある都市ということで、岩倉市以外でも今いろんな都市と交流していますよね。ほかの多分自治体でも複数の市とやっていると思うんです。

やっぱり広げれば広がるほど、さっきのリニアインパクトじゃないけれども、いろんな交換だってできるだろうし、情報交換だってできるだろうし、人事的な交流だってできるだろうし、なぜ大野市にこだわるのかというところは、和泉村のこともあって僕は知っているけど、それだけじゃあやっぱり広がり広がらないというふうに思うからいろんな議員が質問してきたと思うんですよね。そのことについて、何か非常に消極的な感じのままずっと答弁が続いているんですけれども、どうなんでしょうかね。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

大野市さんも複数の市と関係を持ちつつというところは承知もしてはいますけれども、やはりどういう視点で交流を進めていくかということですね。

例えばですけれども、どういう表現がいいのか分からないですけど、海があるところで静養していくための宿泊助成をしていくスタンスのための交流であるのか、市としてお互いの住民にメリットがあるような形の関係性を築く中で交流をしていくのかという、そのあたりの部分はいろんな方から御質問を頂いているとは思いますが、それぞれの立場で御意見を頂いているのかなあということもありますので、やはり数が多くなれば、その関係性というのは薄れていってしまう、どうしても付き合いの粒度というか、そういうものが薄れていってしまうのかなあというようなところもありますので、これまでこのような対応、大野市さんとの過去からの流れを大事にしながら交流を続けているということでもあります。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎委員長（黒川 武君） 以上をもちまして、第5章の検討を終わりたいと思います。

それでは、議題の(3)その他でございますが、特段、発言を求める委員、あるいは執行機関からも何かございましたら発言をお願いしたいと思います。執行機関、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

◎委員長（黒川 武君） 委員の皆さん、よろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） ありがとうございます。

3のその他も特にないだろうと思います。

以上をもちまして、本日の委員会の議題は終結したいと思います。

なお、次回の日程は既にお知らせしたとおり、7月21日火曜日午後1時10分から行いますので、よろしく願いをいたします。

それでは、本日は御協力を頂き誠にありがとうございます。これをもって本日の会議を終了します。お疲れさまでした。